

教育委員会事務点検・評価報告書

(令和5年度事業対象)

令和6年10月

竹原市教育委員会

目 次

1	教育委員会の事務の点検・評価制度について・・・・・・・・・・	1
2	評価の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3	令和5年事業の点検及び評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	（1）学校教育	
	（2）生涯学習・青少年育成	
	（3）歴史・文化	
4	評価委員の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 4
5	参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 2
	（1）竹原市教育大綱（平成31年度～令和5年度）〔抜粋〕	
	（2）令和5年教育委員会会議開催実績	
	（3）令和5年度全国学力・学習状況調査結果	
	（4）令和5年度体力テストの結果	
	（5）生徒指導上諸課題の状況（令和3年度～令和5年度）	
	（6）令和5年度図書館利用状況	

1 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、平成20年度から、全ての教育委員会は、毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることも規定されています。

竹原市教育委員会では、この法律に基づき、教育委員会の事務の点検・評価を行い、教育行政サービスの質の向上と効率化を進めてまいります。

(参考) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (平成19年6月27日一部改正)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 評価の方法

(1) 点検・評価の対象となる事業

竹原市では、平成31年3月に「竹原市教育大綱（平成31年度～令和5年度）」を策定し、市長部局と教育委員会が連携し、取り組むべき3つの柱を掲げました。そのうち、重点的に取り組む施策を推進するための事務事業について、令和5年度の実績に基づき、それぞれ点検・評価を行います。（令和6年3月には、新たな「竹原市教育大綱（令和6年度～令和10年度）」を策定しています。）

【竹原市教育大綱】

- 施策の柱1 学校教育（評価対象事業数 12）
- 施策の柱2 生涯学習・青少年育成（評価対象事業数 5）
- 施策の柱3 歴史・文化財（評価対象事業数 3）

(2) 対象となる期間

令和5年度

(3) 点検・評価の方法

評価対象事業となる20の事業について、必要性、効率性及び有効性の観点を中心に、前年度の評価委員からの意見を踏まえ、評価シートごとに、点検・評価を行いました。

個別評価及び総合評価については、達成度及び今後の方向性を次のとおりそれぞれ4段階評価及び7段階評価で行いました。

【達成度（4段階評価）】

達成度
達成している
ほぼ達成している
ある程度達成している
達成していない

【評価基準（7段階評価）】

評価
拡大・重点化
改善
継続
縮小
終了・完了（今年度中）
統合（今年度中）
廃止（今年度中）

(4) 評価委員による評価

5名の学識経験者の方による外部評価を行いました。

3 令和5年度事業の点検及び評価

(1) 学校教育

重点的施策	点検・評価の対象事業
地域ともにある信頼される学校づくりの推進	コミュニティ・スクール推進事業
	教職員の人材育成
幼保小連携教育の推進	幼保小連携教育
「確かな学力」の向上	未来の人材育成事業
	「学びの変革」全校展開
	学校ICT活用教育推進事業
	特別支援教育、介助員配置
「豊かな心」の育成	生徒指導支援事業
	竹原市キャリアスタートウィークの実施 道徳教育推進
「健やかな体」の育成	体力テストの分析を通じた指導の工夫改善
充実した教育環境づくり	小中一貫教育の推進
	市立学校適正配置計画の推進

(2) 生涯学習・青少年育成

重点的施策	点検・評価の対象事業
生涯学習拠点・機会の充実	地域交流センター運営事業
	図書館運営事業
	竹原市総合文化祭開催事業
	ときめき講座開催事業
学校と地域の協働による生涯学習の推進	コミュニティ・スクール推進事業 文化芸術体験等事業
スポーツ・芸術の振興	テニスコート改修事業
	トップアスリート等スポーツ教室
	各種大会等開催事業
	竹原市美術展開催事業
	陶藝家今井政之氏作品寄附受納
家庭・学校・地域等の連携による教育力の向上 の推進	家庭相談業務、子ども会育成事業
	青少年育成竹原市民会議

(3) 歴史・文化財

重点的施策	
	点検・評価の対象事業
文化財の保存・承継の推進	歴史的建造物調査分析事業 旧森川家住宅保存修理事業 伝統的建造物群保存事業
文化財の活用の推進	文化施設公開事業 歴史的建造物活用促進事業
歴史資産の普及啓発の推進	竹原歴史文化啓発事業 日本遺産（北前船寄港地）活用事業

重点的施策 地域とともにある信頼される学校づくりの推進 【学校教育】		担当課					
事業内容		総務学事課					
○学校の自主性・自立性の確立 ○人材育成の推進 ○開かれた学校づくりの推進							
事業目標							
法令に則った学校づくり・組織マネジメントを確立し、外部に積極的に情報発信するとともに、市内の全ての小・中・義務教育学校において「地域とともにある学校づくり」を実現するため、学校の運営及び必要な支援に関して協議する機関として学校運営協議会を設置する。 また、学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。							
主要事業							
コミュニティ・スクール 推進事業 〔決算額〕 389 千円	【事業概要】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5にしたがって、学校運営協議会を全ての学校に設置する。						
	【取組内容】 令和5年度も引き続き、学校運営協議会を全校へ設置し、コミュニティ・スクールを推進した。各校とも学校運営協議会会議を計画的に開催し、学校運営の方向性や学校に必要な支援、協働的な教育活動などについて熟議をとおして、学校運営に地域、保護者の声を生かしてきた。また、市主催による教職員、学校運営協議会委員を対象とした研修会及び実践交流会を実施することができ、コミュニティ・スクールの推進に向け、より理解を深めることができた。参加者からも「他の学校の取組を聞いて、自分たちが進めている実践は間違っていないと安心した。」「これからも他校の素晴らしい実践を共有して、参考にし、子供たち、地域のために協力したい。」といった声があった。さらに、各校の学校運営協議会には事務局から積極的に参加し、指導助言を重ね円滑な運営に向けた支援を行った。						
	【実施状況】						
	<table><tr><th>項 目</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr><tr><td>令和3年度末までに、市内全校で学校運営協議会を設置し、令和4年度以降は、活動の質の向上を図る。</td><td>市内全校において、学校運営協議会を設置し、特色ある取組を推進した。</td><td>各校の実践を持ち寄り、交流会を開催して、取組の充実発展を図った。</td></tr></table>	項 目	令和4年度	令和5年度	令和3年度末までに、市内全校で学校運営協議会を設置し、令和4年度以降は、活動の質の向上を図る。	市内全校において、学校運営協議会を設置し、特色ある取組を推進した。	各校の実践を持ち寄り、交流会を開催して、取組の充実発展を図った。
項 目	令和4年度	令和5年度					
令和3年度末までに、市内全校で学校運営協議会を設置し、令和4年度以降は、活動の質の向上を図る。	市内全校において、学校運営協議会を設置し、特色ある取組を推進した。	各校の実践を持ち寄り、交流会を開催して、取組の充実発展を図った。					
点検結果		達成度					
市内全ての学校において、コミュニティ・スクールを推進してきた。各校において、特色ある取組を進めるにあたり、学校主導ではなく、子供たちの育成をめざし、地域からの発信による、地域とともにある学校づくりを推進するようになってきた。		ほぼ達成している					
今後の取組		今後の方向性					
引き続き、市主催の学校運営協議会委員を対象とした研修会や実践交流会等を実施し、効果的な実践や先行事例を通して、コミュニティ・スクールの効果等について共通理解を図り、学校や子供たちの課題解決や教育活動の充実に向けて建設的な議論ができる学校運営協議会の運営をめざす。		継続					

重点的施策 地域とともにある信頼される学校づくりの推進		担当課					
【学校教育】							
事業内容		総務学事課					
○学校の自主性・自立性の確立 ○人材育成の推進 ○開かれた学校づくりの推進							
事業目標							
法規法令に則った学校づくり・組織マネジメントを確立し、外部に積極的に情報発信するとともに、市内の全ての小・中・義務教育学校において「地域とともにある学校づくり」を実現するため、学校の運営及び必要な支援に関して協議する機関として学校運営協議会を設置する。 また、学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。							
主要事業							
教職員の人材育成 〔決算額〕 非予算	【事業概要】 ・研修の実施及び校長ヒアリング等を通し計画的な人材育成を推進する。 ・学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。 ・学校経営の参画意識を高め、将来学校経営を担うミドルリーダー層を育成する。						
	【取組内容】 ・校長による人材育成計画に基づき、ヒアリングを通して校内における個々の資質・能力に応じた人材育成について助言を行った。 ・キャリアステージに応じた市主催の研修を実施し、主任層をはじめミドルリーダー層への学校経営への参画意識を醸成した。 ・新規採用者、新規採用4年終了者等、若手教職員の力量形成及びやりがいを持って職務を遂行できるよう、学校とも連携し、訪問指導を行った。						
	【実施状況】						
	<table><tr><th>項 目</th><th>管理職選考</th><th>推薦研修</th></tr><tr><td>令和5年度、管理職選考を校長職2名以上、教頭職4名以上受験させ、推薦研修には3名以上推薦する。</td><td>校長選考へ1名、教頭選考へ2名が受験した。</td><td>中央研修へ2名、教育総合講座へ1名推薦した。</td></tr></table>	項 目	管理職選考	推薦研修	令和5年度、管理職選考を校長職2名以上、教頭職4名以上受験させ、推薦研修には3名以上推薦する。	校長選考へ1名、教頭選考へ2名が受験した。	中央研修へ2名、教育総合講座へ1名推薦した。
項 目	管理職選考	推薦研修					
令和5年度、管理職選考を校長職2名以上、教頭職4名以上受験させ、推薦研修には3名以上推薦する。	校長選考へ1名、教頭選考へ2名が受験した。	中央研修へ2名、教育総合講座へ1名推薦した。					
点検結果		達成度					
広島県教員等資質向上指標をもとに、個々の教職員のもつ資質・能力やキャリアを生かした人材育成や適材適所による校務分掌の業務担当を推進している。 各主任や各教育内容担当者を対象とした研修会を計画的に実施し、専門性の向上を図ったり、訪問指導等による個別指導の機会を活かし、次期管理職候補の育成をめざしたスクールリーダー育成を図ったりした。 校内外の研修機会を活かし、人材育成を推進することができた。		ほぼ達成している					
今後の取組		今後の方向性					
教頭候補となる主任層の人材を育成することを重点に置き、主任として各部のマネジメントを通して、学校経営への参画意識を高めていくとともに、研修履歴を活用した対話に基づいた研修の受講奨励を行い、効果的かつ主体的な資質向上・職能開発を図り、校内外における人材育成を推進していく。		継続					

重点的施策 幼保小連携教育の推進【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○幼保小連携の推進 ○幼保小接続カリキュラムの編成・実施		
事業目標		
園所等で培った育ちと学びを小学校での学びにつなぐ教育活動を実現するため、相互が連携し、カリキュラムを作成する等、就学前教育と小学校以降の教育の円滑な接続を図る。		
主要事業		
幼保小連携教育 〔決算額〕 300 千円	【事業概要】 ・竹原市幼保小連携協議会を年間2回、研修会を3回実施し、連携教育の充実に向けた組織体制を構築した。 【取組内容】 ・協議会において、園・小学校等の所属長や担当者が、それぞれのカリキュラムをもとに、内容を修正する等の協議を深めたことで、今後の目指す方向性を共有することができた。 ・研修会では、認定こども園と小学校等との保育・授業参観や理論研修を合同で行い、子供たちに育みたい資質・能力を共有することができた。 〈参加者の感想〉 ○こども園での学びは長いスパンでつながっており、友達と考えを出し合うための環境を整えておられた。この学びの力が小学生になった時、のびのびと発揮できるよう、こども園や新入児の保護者と連携をとり信頼関係を築き、学びをつなげていきたい。 ○こども園での活動や遊び、歌などを入学時の生活につなげていきたい。研修の内容を担当だけでなく学校全体の活動の中にも取り入れていきたい。	
点検結果		達成度
協議会を設置して2年目となったが、計画的な研修を行うことができた。保育・授業参観を合同で行うことができ、大変効果があった。また、来年度はブロックごとに研修を実施するという見通しを明確にすることで、持続可能な連携方法について共有することができた。		達成している
今後の取組		今後の方向性
幼保小の担当教員が低学年の教員中心であるため、学校全体に広がりにくい実態もある。今後は学校全体の取組にするためにも、各学校において全教員による連携教育の充実に向けた研修を行う。		継続

重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT 活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進		
事業目標		
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。		
主要事業		
未来の人材育成事業 〔決算額〕 7,209 千円	【事業概要】 ・ハワイ州への海外派遣研修事業を実施した。 ・姉妹校締結を行ったホノウリウリミドルスクールと、オンラインによる交流を行った。 ・1 DAY 国内留学Ⅰ及びⅡを実施した。 【取組内容】 ・令和5年度の派遣決定者8名のハワイ州への海外派遣研修を実施した。生徒は、ハワイの文化や歴史を学習するとともに、異文化に触れ、多様な視点から考えることの大切さを感じることができた。研修の事前事後には各学校で発表を行い、リーダーとしての自覚を高めるとともに、市内児童生徒の外国語学習への意欲を高めることができた。 ・市内の児童生徒を対象とした1 DAY 国内留学Ⅰ、Ⅱを実施し、これまで身に付けた英語力やコミュニケーション力を活用するとともに、異文化の人々と交流する楽しさや喜びを感じることができた。 〈海外派遣研修参加者の感想〉 ○研修に参加したことで、今までの固定観念がなくなりました。日本と異なる文化や考え方を肌で感じることができました。また、英語学習への意欲を持つことができました。 ○これからの将来、日本はグローバル化し、様々な文化の共存する時代になると思います。だから、私は今回頂いたチャンスが無駄にせず、この研修での経験を将来に生かしていきたいです。 （1 DAY 国内留学参加者の感想） ○英語が伝わらなくても、一生懸命話すと伝わるのが分かりました。 ○いろんな表現や単語の復習になりました。もっと英語の学習がしたいと思えるようになりました。 ○自分で文章を考えることができて良かったです。ガイドをする時に、留学生の方とも、他校の生徒ともコミュニケーションがとれたので、コミュニケーション力も向上しました。日常会話ぐらいは完璧にできるように頑張りたいです。	

	【実施状況】 ※英検 I B A 調査（R 5 県教委主催事業）による取得率		
	項 目	令和4年度	令和5年度
	英語検定3級取得率	30.6%	39.0%
点検結果			達成度
1 DAY 国内留学Ⅰでは、32名の児童が参加し、ゲームや留学生の出身国の紹介カードづくり等を通して、外国の文化を知るとともに、英語によるコミュニケーションを楽しむことができた。また、1 DAY 国内留学Ⅱでは、15名の生徒が参加し、大久野島を紹介する英文を考え、留学生に大久野島を案内しながら竹原の観光地について伝えることができた。生徒はこれまでの既習内容を活用し、英語で説明したり、意思疎通をしたりする等、英語を実際に使うことの楽しさや難しさを感じることができた。 また中学校及び義務教育学校では、海外派遣研修の事前と事後に派遣決定者が研修内容を発表することで、市内全体に学びを還元することができたとともに、ホノウリウリミドルスクールの生徒たちとオンライン交流会を行い、異文化を知ることに加え、英語に興味関心を持ち、意欲の向上につながった。 さらに、令和5年度全国学力・学習状況調査では、英語調査が県平均を2p上回り、県内のトップクラスであった。この結果からも、生徒の学力向上への有効な手立てになったと考えられる。			達成している
今後の取組			今後の方向性
引き続き、未来の人材育成推進事業（TGG）の取組を進め、児童生徒の英語に対する興味・関心を高めるとともに、日常的に英語によるコミュニケーション力を高め、国際社会で活躍できる人材の育成を図る。同時に、グローバルな視点を持ち、異文化・自文化理解を深めることで、ふるさと「たけはら」を広く発信できる人材の育成につなげていきたい。 また、各学校においては、外国の方々と触れ合い、多文化を知ることができる機会を設けるよう声かけを行う。			継続

重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】		担当課	
事業内容		総務学事課	
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT 活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進			
事業目標			
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。			
主要事業			
「学びの変革」全校展開 〔決算額〕 非予算	【事業概要】 ・ 県教委「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、カリキュラム開発等に関する実践的な研究を推進した。（吉名学園） ・ 全国学力・学習状況調査の結果から個のつまづきを分析し、学力向上に向けた手立てを講じた。		
	【取組内容】 ・ 研究主任研修会兼「学びの変革」推進協議会を年間3回実施し、「教師のファシリテート」に焦点をあて、各教科等の見方・考え方に応じた授業改善を行った。 ・ 指定校では、学力に課題が大きい児童を対象とした実態の把握と課題の背景にある要因を分析し、指導方法に焦点を当てた手立てを研究した。 ・ 学校訪問指導を行い、「主体的な学び」の実現に向けて、授業改善を推進した。		
	【成果指標】前期目標（令和5年） ＜小学校＞国語 3.0% 算数 2.0% ＜中学校＞国語 1.0% 数学 0.5% 英語 2.0%		
	項 目	令和4年度	令和5年度
	基礎学力が定着している児童生徒の割合（全国学力学習調査通過率）（広島県平均比較）	＜小学校＞ 国語 4.0% 算数 3.0% 理科 4.0% ＜中学校＞ 国語 3.0% 数学 5.0% 理科▲1.0%	＜小学校＞ 国語 2.0% 算数▲1.0% ＜中学校＞ 国語 3.0% 数学 4.0% 英語 2.0%

点検結果	達成度
小学校算数科以外の教科において、県平均を上回った。各学校が「改善計画」を基に、子供たちの課題を分析し、継続した取組を積み重ね、基礎基本の力を着実に定着させたことが要因の1つであると考えられる。また、「学びの変革」推進協議会では、「教師のファシリテート」に焦点化し、「児童生徒の主体的な学び」につながる指導方法の充実を図った。	達成している
今後の取組	今後の方向性
各学校において、改善計画に基づいた具体的な取組とともに、学校全体で基礎基本を定着させる取組を継続しつつ、児童生徒の学びをファシリテートするための教師の授業改善をさらに推進させていく。 あわせて、各学校において実施している学力調査等も活用し、個々の実態や状況を把握するとともに、個に応じた支援を継続的に行っていく。 また、一人1台端末を効果的に活用するなど、個別最適な学びにつながる方策も構築していく。 さらに、指定校の研究成果を市内の学校に還元する場を設定することで、指導方法や単元づくり等の改善が図られるようにしていく。	継続

重点的施策「確かな学力」の向上【学校教育】		担当課					
事業内容		総務学事課					
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT 活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進							
事業目標							
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。							
主要事業							
学校 ICT 活用 教育推進事業 〔決算額〕 非予算	【事業概要】 ・タブレット型端末及び電子黒板等 ICT 機器の活用を進めた。						
	【取組内容】 ・一人1台端末を活用した指導の工夫を行うことができた。また、ICT 活用教育推進リーダーを対象とし、講義や提案授業をもとにした研修を年間2回行った。 ・ICT を活用した授業実践を充実させた。						
	【実施状況】						
	<table><tr><td>項 目</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>ICT 活用授業（週時間数）</td><td>週 63 時間</td><td>週 53.5 時間</td></tr></table>		項 目	令和4年度	令和5年度	ICT 活用授業（週時間数）	週 63 時間
項 目	令和4年度	令和5年度					
ICT 活用授業（週時間数）	週 63 時間	週 53.5 時間					
点検結果		達成度					
各校の ICT 活用教育推進リーダーを対象とした研修を年間2回行い、理論と発達の段階に即した授業場面での活用の両面から協議を深めることができた。研修では、「個別最適な学び」の考え方を理解し、個の状況に合わせた端末の活用方法について協議を深めることができた。 一方で、端末を活用する際、「ねらいを達成するために効果的か」、「使用しない方がより効果があるのではないかな」等、授業者が取捨選択しながら活用する場面も見られるようになり、授業改善のためのツールの1つとして捉えられるようになってきた。		ほぼ達成している					
今後の取組		今後の方向性					
授業者が ICT 機器を授業において効果的に活用していく一方で、児童生徒が「日常的」に活用できるよう研修を実施していく。また、個の実態や教科の特性等に応じた活用方法の蓄積とともに、「協働的な学び」の実現に向けた事例の集積も行う活用の幅を広げていく。		継続					

重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT 活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進		
事業目標		
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。		
主要事業		
特別支援教育 〔決算額〕 246 千円 介助員配置 〔決算額〕 52,528 千円	【事業概要】 ・ 特別支援教育相談委員会を開催した。 ・ 介助員を配置（27人）した。 ・ 5月に介助員対象とした研修会を実施した。 【取組内容】 特別支援教育相談委員会規則に基づき、児童・生徒が適切な教育を受けられるよう就学指導を行った。 学校生活や授業等において、支援・介助を必要とする児童生徒に対して介助員を配置するとともに、年度当初、全介助員を対象とした特別支援教育に係る研修を行った。	
点検結果		達成度
特別な支援が必要と思われる児童・生徒が、適切な教育を受けるために専門的見地から就学指導を行うため、特別支援教育相談委員会において協議している。 介助員を配置することにより、児童生徒の学校生活や授業での自立を支援し、その能力と適性を伸長することができた。		達成している
今後の取組		今後の方向性
児童・生徒が適切な教育を受けられるよう継続する。 今後も、介助員対象の研修を実施することで、より個の実態に即した効果的な支援ができるよう取り組んでいく。		継続

重点的施策「豊かな心」の育成【学校教育】		担当課	
事業内容		総務学事課	
○体験活動の充実 ○道徳教育の充実 ○生徒指導の充実 ○伝統・文化等に関する教育の推進 ○キャリア教育の推進			
事業目標			
規範意識を育て、思いやりや自律の心を身に付けた児童生徒を育成する。			
主要事業			
生徒指導支援事業 〔決算額〕 5,533 千円	【事業概要】		
	・竹原市適応指導教室において個の実態に即した指導・支援を行った。 ・市教委内に学校教育支援アドバイザーを設置し、定期的な学校訪問や、個別の支援を行った。		
	【取組内容】		
	・適応指導教室や教育支援アドバイザーを設置することにより、不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援や相談業務を行った。 ・県教委が設置した「スクールS」を活用し、オンラインや来室による個別の支援を行った。		
	【成果指標】 前期目標（令和5年）＜小学校＞0.15% ＜中学校＞3.00%		
	項 目	令和4年度	令和5年度
	不登校児童生徒の割合	小 0.4%	小 0.5%
		中 3.6%	中 3.5%
点検結果		達成度	
適応指導教室では、不登校傾向にある児童生徒の学習支援や保護者に対する相談業務を行い、一人一人の実態に応じた社会的自立に向けた取組を進めることができた。 学校教育支援アドバイザーを1名設置することで、各学校の状況を把握し、個に対する支援方法を学校と共有したり、保護者の相談を受けたりすることで、個の実態や困り感に即した支援を行うことができた。 しかし、不登校の割合は増加しているので、個の背景や状況を把握し、改善に向かうよう、多様な支援が必要である。		ある程度達成している	
今後の取組		今後の方向性	
各学校に配置しているSCやSSWと連携し、児童生徒や保護者の背景や困り感を把握し、解決策や改善策を見出していく。 さらに、自宅にしか居場所がない児童生徒と教育支援アドバイザーがつながることができるよう、学校、他機関との連携も踏まえた支援方法の充実を図る。		継続	

重点的施策 「豊かな心」の育成【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○体験活動の充実 ○道徳教育の充実 ○生徒指導の充実 ○伝統・文化等に関する教育の推進 ○キャリア教育の推進		
事業目標		
規範意識を育て、思いやりや自律の心を身に付けた児童生徒を育成する。		
主要事業		
竹原市キャリアスタートウィークの実施 〔決算額〕 非予算 道徳教育推進 〔決算額〕 非予算	【事業概要】 ・キャリアスタートウィークを実施した。(計94事業所) ・県教委「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、カリキュラム開発を推進し、実践研究を推進した。(竹原中学校区) ・竹原市道徳教育推進協議会を年間2回実施した。 【取組内容】 ・キャリアスタートウィークでは、各学校の学校運営協議会を生かし、学校と地域とが、より密接に協力し合いながら、事業所と育みたい資質・能力を共有した職場体験学習を実施することができた。 ・竹原中学校区では外部人材を積極的に活用し、資質・能力の育成に視点をあてたカリキュラムを作成した。 ・県教委指導主事を招聘し、竹原市道徳教育推進協議会を年2回実施した。研究授業、協議、講話により、道徳教育についての協議を深めた。	
点検結果		達成度
各学校の学校運営協議会を活用したキャリアスタートウィークでは、各学校が事業所と子供たちにどのような力を育みたいかを事前に共有することができ、各校の特色が生かせる取組になった。また、報告会では、各学校の学校運営協議会のメンバーの方々にも参加していただき、成果を共有することができた。 竹原市の道徳教育推進協議会では、ねらいを達成するための指導方法工夫やカリキュラム・マネジメントの視点を生かした道徳教育の推進について研修を深めることができた。		達成している
今後の取組		今後の方向性
各学校において生徒につけたい資質・能力を明確にし、学校運営協議会の機能を生かした内容になるよう、今後もキャリアスタートウィークの充実を図っていく。また、県の指定事業を受けている竹原中学校区の研究成果を広く発信し、9年間を見通したカリキュラムの充実を図っていく。		継続

重点的施策「健やかな体」の育成【学校教育】		担当課	
事業内容		総務学事課	
○健康教育の充実 ○体力づくりの充実 ○食育の充実			
事業目標			
健やかな心身の発達のために、体力づくりや食育を計画的に推進する。			
主要事業			
体力テストの分析を通した指導の工夫改善 〔決算額〕 292 千円	【事業概要】 体力テスト事業を実施する。		
	【取組内容】 全学年において体力テストを実施するとともに、その結果を分析し、授業や行事等の取組に生かし、児童生徒の体力の向上を図った。		
	【成果指標】前期目標（令和 5 年）＜小学校＞96.9% ＜中学校＞50.0%		
	項 目	令和 4 年度	令和 5 年度
	新体力テストの広島県の平均以上の種目の割合（全学年）	県の調査対象が小 5 及び中 2 に変更となったため、比較不能	県の調査対象が小 5 及び中 2 に変更となったため、比較不能
点検結果		達成度	
令和 3 年度から広島県及び国の調査が小 5 及び中 2 のみの対象となった。コロナの影響もあり子供たちの運動能力は低下していたため、本市は課題解決に向け、これまで通り全学年で実施したところ、コロナ禍前の数値まで戻すことができた。 ※令和元年度 小 5 91.7%、中 2 50.0% 令和 5 年度 小 5 93.8%、中 2 56.3%		ある程度達成している	
今後の取組		今後の方向性	
各学校においては、児童生徒の課題の的確な分析を行うとともに、成果の上がる改善計画の作成・実施を行う。また、中学校及び義務教育学校後期課程では、引き続き、保健体育科の授業以外にも部活動や学校行事等における体力づくりの実践を進める必要がある。 あわせて、これまでの新体力テストの結果をもとに、個々の実態や状況を把握するとともに、個に応じた支援を継続的に行っていく。 さらに、「運動やスポーツ好きの児童生徒」の育成に向け、日常の活動や授業内容や指導方法の指導、改善を図っていく。		継続	

重点的施策 充実した環境づくり【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○小中一貫教育の推進 ○学校の適正配置		
事業目標		
学校施設の修繕、小中一貫教育の推進、学校規模の適正化など充実した教育環境の整備に努める。		
主要事業		
小中一貫教育 の推進 〔決算額〕 非予算	【事業概要】 9年間を見通した指導を徹底するため、小中一貫教育に取り組んだ。 【取組内容】 ・平成30年より義務教育学校吉名学園が開校、令和3年度は忠海学園が義務教育学校となり、9年間を見通した特色ある学校づくりを進めた。 ・竹原中学校区及び賀茂川中学校区については、定期的に部会を開催し、連携型小中一貫教育を行っている。	
点検結果		達成度
義務教育学校である吉名学園では学校運営協議会を積極的に活用した総合的な学習の時間の実践を充実させた。また忠海学園は、学校運営協議会を核とした地域を巻き込んでの図書館教育の実践が認められ、令和6年度文部科学大臣表彰を受賞した。他の中学校区においても、定期的に小中一貫教育に関する会を開催し、組織的に取組を進めることができている。		達成している
今後の取組		今後の方向性
小中一貫教育の取組についてはコミュニティ・スクールの取組と関連を図りながら進め、教育課程に有効に取り入れる等、活用を充実させる。		継続

重点的施策 充実した環境づくり【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○小中一貫教育の推進 ○学校の適正配置		
事業目標		
学校施設の修繕、小中一貫教育の推進、学校規模の適正化など充実した教育環境の整備に努める。		
主要事業		
市立学校適正配置計画の推進 〔決算額〕 493 千円	【事業概要】 令和4年12月に策定（令和5年6月改訂）した「竹原市立学校適正配置計画」に基づき、（仮称）賀茂川学園設立及び大乘小学校統合の取組を推進する。 【取組内容】 ○（仮称）賀茂川学園設立に向けた取り組み ・PTA役員代表者、地域代表者、小学校・中学校の校長、学校運営協議会委員等を構成員とする（仮称）賀茂川学園設立準備委員会を設置した。 ・第1回準備委員会においては、準備委員会の役割及び（仮称）賀茂川学園開校までのスケジュール等について協議し、第2回準備委員会においては、（仮称）賀茂川学園の基本設計等について協議した。 ○大乘小学校統合に向けた取り組み ・PTA役員代表者、地域代表者、小学校・中学校の校長、学校運営協議会委員等を構成員とする大乘小学校統合準備委員会を設置した。 ・第1回準備委員会において、準備委員会の役割及び大乘小学校統合までのスケジュール等について協議した。	
点検結果		達成度
（仮称）賀茂川学園設立準備委員会及び大乘小学校統合準備委員会における各委員からの自由闊達な意見等を踏まえ、（仮称）賀茂川学園設立及び大乘小学校統合の取組を検討、推進している。 また、（仮称）賀茂川学園設立準備委員会だより及び大乘小学校統合準備委員会だよりを作成し、市ホームページでの掲載など公表を行うとともに、同委員会だよりを関係地域の住民に周知し、（仮称）賀茂川学園設立及び大乘小学校統合の取組を検討、推進している。		ある程度達成している
今後の取組		今後の方向性
今後においても、（仮称）賀茂川学園設立及び大乘小学校統合の取組を推進するにあたっては、準備委員会等において、保護者や地域住民に十分寄り添い、理解を得ながら丁寧な対応を行う。		継続

重点的施策 生涯学習拠点・機会の充実【生涯学習・青少年育成】		担当課	
事業内容		文化生涯学習課 地域づくり課	
○拠点施設の周知広報と学校や文化活動団体等との連携による 利用促進			
○地域課題やニーズに応じた講座等の提供			
事業目標			
市民が生涯学習に取り組む機会を創出し、市民のニーズを満たす学習内容の提供に努めるために生涯学習拠点・機会の充実に取り組む。			
主要事業			
地域交流センター運営事業 〔決算額〕 76,180 千円	【事業概要】 個人の学びに加え、社会ニーズも踏まえた学びを実践するとともに、その学びの成果を活用し、社会全体の教育力を向上させるため、地域交流センターにおいて各種講座、教室等を実施する。		
	【取組内容】 各地域交流センターの創意工夫のもと、地域文化の伝承、教養の向上、体育レクリエーション、家庭教育、ボランティア育成などの講座を実施した。 また、地域住民が講師になり、自治会、協働組織とも連携を行うなど、様々な人材の活用を取組を行った。		
	【実施状況】		
	項 目	令和4年度	令和5年度
	地域交流センター利用者数	78,724 人	86,300 人
図書館運営事業 〔決算額〕 53,405 千円	【事業概要】 市民生活や教養、芸術文化の向上に資する書籍等を収集し、それらを市民に広く提供することにより、市民の生涯学習環境を充実させる。		
	【取組内容】 図書館運営事業は指定管理者株式会社図書館流通センターによる委託業務は3年目となった。図書館サービス及び移動図書館車巡回や電子図書館サービス、市内小中義務教育学校、地域ボランティアとの連携及び図書館資料管理等、適切に運営を行った。また、新規事業として、「竹原学歴史講座」を6回開催するなどした。 移動図書館車を軽貨物自動車タイプの「わかたけ4号」に更新し、小型化により狭小道路への進入が可能となることから、これまで進入ができなかった地域へステーションを3カ所追加した。		
	【成果指標】 前期目標（令和5年）38,000 人		
		令和4年度	令和5年度
	図書館利用者数	33,519 人	31,108 人

竹原市総合文化祭開催事業 〔決算額〕 735 千円	【事業概要】 市内の芸術文化活動の推進を図るため、竹原市文化団体連盟と共催し、総合文化祭を開催する。児童生徒の芸術文化活動の活性化を図るとともに、芸術に対する親しみと心の豊かさを育むため、竹原市立学校児童生徒図画書道展を開催する。 【取組内容】 竹原市文化団体連盟と、竹原市総合文化祭を共催して、舞台部門・展示発表等の機会および鑑賞の機会を提供するとともに、芸術文化振興の向上に寄与した。市内小中義務教育学校、竹原市美術協会との連携により、図画書道展を開催し、児童生徒が文化芸術に触れ合う機会を確保し、心の豊かさの向上に寄与した。新庁舎整備に伴い、竹原市総合文化祭の展示部門及び、児童生徒図画・書道展は、展示場所を変更して開催したが、例年並みの団体数や応募者があった。 【実施状況】 <table><tr><th>項 目</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr><tr><td>竹原市総合文化祭参加団体数</td><td>21 団体</td><td>21 団体</td></tr><tr><td>児童生徒図画・書道展応募者数</td><td>2,040 人</td><td>1,752 人</td></tr></table>	項 目	令和4年度	令和5年度	竹原市総合文化祭参加団体数	21 団体	21 団体	児童生徒図画・書道展応募者数	2,040 人	1,752 人
項 目	令和4年度	令和5年度								
竹原市総合文化祭参加団体数	21 団体	21 団体								
児童生徒図画・書道展応募者数	2,040 人	1,752 人								
ときめき講座開催事業 〔決算額〕 63 千円	【事業概要】 社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくりが学びと活動の好循環となり、市民が「学ぶたのしさ」や「竹原の歴史・文化」に親しむことを通じて、生きがいや楽しみを実感し心ときめく人生となるよう、令和4年度から「たけはらときめき講座」を実施している。 【取組内容】 広島国際大学田中秀樹教授を講師として、睡眠に関する講座を開催し、睡眠についての知識を深めた。また、ときめき講座関連事業として、胡堂調査報告会を紹介し、歴史・文化に親しむ学びの機会を提供した。 【実施状況】 <table><tr><th>項 目</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr><tr><td>ときめき講座参加者数</td><td>23 人</td><td>80 人</td></tr></table>	項 目	令和4年度	令和5年度	ときめき講座参加者数	23 人	80 人			
項 目	令和4年度	令和5年度								
ときめき講座参加者数	23 人	80 人								
点検結果		達成度								
市民が生涯学習に取り組む機会を創り出すことができた。また、文化生涯学習課の各種行事や講座の募集、実施結果を HP 等で情報発信した。		達成している								
今後の取組		今後の方向性								
関係課、関係団体と連携を取りながら、生涯学習拠点・機会の充実及び、利用者増に向けた取組を行っていく。		継続								

重点的施策 学校と地域の協働による生涯学習の推進 【生涯学習・青少年育成】		担当課												
事業内容		文化生涯学習課												
○学校と地域の連携強化による生涯学習環境の充実 ○生涯学習を通じた地域活動の担い手の育成														
事業目標														
学びの成果を地域社会に還元し、地域の活力を高めるため、地域活動を担っていく人材の育成に取り組む。														
主要事業														
〔決算額〕 コミュニティ・スクール推進事業 〔決算額〕 389 千円 (再掲)	【事業概要】 「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を実現するため、市内の全ての小・中・義務教育学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールを推進した。 また、学校・地域の協働による生涯学習を推進するとともに、生涯学習を通じた地域人材を育成するため、学習機会の提供等の支援を行う。 【取組内容】 コミュニティ・スクールを推進するため、学校運営協議会委員（地域交流センター職員を含む）の理解促進と各学校における地域学校協働活動の情報共有等を図ることを目的とした、「地域とともにある学校づくり」実践交流会を開催した。（参加者 5 人） また、令和 5 年度は、地域づくり課と連携し、地域交流センター職員を対象に、これからの生涯学習振興・社会教育行政等に期待されている役割等について、広島県立生涯学習センターの職員から研修を受けた。（参加者 22 人） 【成果指標】 前期目標（令和 5 年）50 人 <table><tr><td>項 目</td><td>令和 4 年度</td><td>令和 5 年度</td></tr><tr><td>地域人材養成講座受講者数（累計）</td><td>39 人</td><td>66 人</td></tr></table> 【成果指標】 前期目標（令和 5 年）5 人 <table><tr><td>項 目</td><td>令和 4 年度</td><td>令和 5 年度</td></tr><tr><td>社会教育主事講習終了者数（累計）</td><td>2 人</td><td>1 人</td></tr></table>		項 目	令和 4 年度	令和 5 年度	地域人材養成講座受講者数（累計）	39 人	66 人	項 目	令和 4 年度	令和 5 年度	社会教育主事講習終了者数（累計）	2 人	1 人
項 目	令和 4 年度	令和 5 年度												
地域人材養成講座受講者数（累計）	39 人	66 人												
項 目	令和 4 年度	令和 5 年度												
社会教育主事講習終了者数（累計）	2 人	1 人												

文化芸術体験 等事業 〔決算額〕 5 千円	【事業概要】 地域住民や児童生徒を対象に、もの作りの楽しさや芸術に関心を持ってもらうことを目的として、講座の開催等を行う。		
	【取組内容】 竹原市文化団体連盟と連携し、美術体験講座「色鉛筆で絵を描こう！」を開催した。また、各活動団体が主となって、学校において生花・琴・舞踊等を指導し、もの作りの楽しさや芸術に関心を持ってもらい、文化芸術を後世に伝えていく取り組みを行っている。 〈参加者の感想〉 ○久々に集中して絵を描きました。大変楽しい時間をありがとうございました。 ○絵心のない、私ですが楽しく参加させていただきました。また機会があれば参加させて下さい。		
	【実施状況】		
		令和 4 年度	令和 5 年度
	美術体験講座参加者数	14 人	15 人
点検結果		達成度	
地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域づくりの活動を促進できるよう、支援を行った。 地域で活動する人材により、もの作りの楽しさや芸術に関心を持ってもらう機会を創出した。		ある程度達成している	
今後の取組		今後の方向性	
来年度以降も地域と協働した取組として引き続き行っていくことで、学校での取組に地域への関わりを強め、地域住民が学校をより身近な存在として感じられる状況となるよう支援していく。 今後も、「地域活動を担っていく人材の育成」に取り組む。		継続	

重点的施策　スポーツ・芸術の振興【生涯学習・青少年育成】		担当課
事業内容		文化生涯学習課
○スポーツ、芸術・文化に親しむ機会の提供 ○スポーツ、芸術・文化を生涯楽しめる環境の充実		
事業目標		
スポーツ、芸術・文化の普及、指導団体を担う人材の育成に取り組むとともに、豊かなスポーツライフ、芸術・文化振興に向けた環境の充実に努める。		
主要事業		
テニスコ ート改修 事業 〔決算額〕 51,485 千円	【事業概要】 クレイ（土）コート8面で運用しているピースリーホームバンブー総合公園内のテニスコートについて、4面をオムニ（人工芝）コートへ更新し、利用者の安全・安心と利用環境の確保により利用者増を目指す。 【取組内容】 特定財源（スポーツ振興くじ助成金）等を活用し、総合公園バンブー・ジョイ・ハイランド内のテニスコート4面をオムニ（人工芝）コートへ更新するとともに、利用料金を改定した。 【実施状況】 令和5年6月 令和5年8月～令和6年2月 令和6年3月 補正予算（工事請負費等）上程 現地工事 供用開始	
トッパ スリート 等スポ ーツ教 室 〔決算額〕 84 千円	【事業概要】 トッパススリートによる様々なスポーツ教室を開催することで、スポーツの楽しさを伝え、夢や目標を持ち、懸命に取り組む素晴らしさを伝えていくことを目指す。 【取組内容】 NPO法人トッパス広島の協力を得ながら、加盟団体の選手によるスポーツ教室・講習会を開催している。令和5年度は、中国電力（株）陸上部選手により、市内小中義務教育学校児童を対象とした陸上（中・長距離走）教室を開催した。（参加者47人） 広島県が開催した「インクルーシブ・スポーツ・フェスタ広島2023」のサブ会場として、車いすバスケットボール教室を小学校・義務教育学校5学年以上を対象に開催した。（参加者16人） また、NTT西日本テニス部選手により、市内小中義務教育学校児童生徒を対象としたピースリーホームバンブー総合公園人工芝テニスコート完成記念ソフトテニス教室を開催した。（参加者39人）	

	【実施状況】		
		令和4年度	令和5年度
	トップアスリートスポーツ教室等参加者数	29 人	102 人
各種大会 等開催事業 〔決算額〕 4,380 千円	【事業概要】		
	市民が様々なスポーツに触れる機会を創出するとともに、競技力の向上、健康増進等を目的として、各種大会等を開催する。		
	【取組内容】		
	令和5年度から竹原市民スポーツ大会に名称変更して開催した。		
	竹原市スポーツ協会と連携し、市民スポーツ大会において予定していた全種目を開催した。		
	市民ハイキング、市民スポーツ大会、竹原駅伝競走大会、竹原ロードレース大会を開催し、市民にスポーツに触れる機会が提供できた。		
	【実施状況】		
		令和4年度	令和5年度
	市民ハイキング参加者数	24 人	26 人
	市民スポーツ大会参加者数	1,088 人	1,045 人
竹原市美術 展開催事業 〔決算額〕 124 千円	【事業概要】		
	市民の芸術文化活動の推進を図るため、竹原市美術協会と共催により、展示・鑑賞の機会を提供できる展示会を実施する。		
	【取組内容】		
	広く市民から美術作品を公募し、創作活動を奨励するとともに、鑑賞の機会を提供することとし竹原市美術展は、新庁舎整備に伴い、展示場所を変更して開催したが、例年並みの作品応募があった。		
	【実施状況】		
		令和4年度	令和5年度
	市美展応募者数	29 人	28 人

陶藝家今井政之氏作品寄附受納 〔決算額〕 629 千円	【事業概要】 令和5年3月に御逝去された陶藝家今井政之氏の御遺族で、陶藝家の今井眞正氏から、寄附の申し出があり、今井政之氏作品を受納した。 【取組内容】 市として収集ビジョンを「陶藝家今井政之氏の足跡を、作品等を通じストーリーで語る」として、寄附を受けることとし、専門家とともに選定作業を行い、収集ビジョンに沿った作品 757 点を受納した。 【実施状況】 令和5年9月 今井作品のから寄附申し出 令和5年10～12月 寄附受納候補となる作品の調査選定作業 令和5年12月 寄附受納
点検結果	達成度
スポーツ、芸術・文化の振興について、これまでのつながりを生かした関係諸団体との連携等による人材育成・後継者養成を進めていく必要がある。	ほぼ達成している。
今後の取組	今後の方向性
関係諸団体との連携等により、引き続き市民がスポーツ、芸術・文化に触れ合う機会を創出するとともに、それらを担う人材の育成に取り組んでいく。 今井政之氏作品については、貴重な芸術資源、教育資源、観光資源であることから、有効な活用を図るため、今井政之氏顕彰施設を整備することとし、基本構想の策定に取り組む。	継続

重点的施策 家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進 【生涯学習・青少年育成】		担当課	
事業内容		健康こども未来課	
子育てに関する学習機会の提供による家庭教育力の向上			
事業目標			
子供が家庭で社会生活に適応するために必要な生活習慣などを身につけながら健やかに成長していけるよう、ニーズに応じた養育支援や子供への直接支援を関係機関と連携して行い、家庭教育力の向上を図ります。			
主要事業			
家庭相談業務 〔決算額〕 5,984 千円 子ども会育成事業 〔決算額〕 非予算	【事業概要】 ・養育に課題がある家庭の子供の権利を守るため、家庭相談員が関係者と連携を図りながらその保護者等への相談・指導を行う。 ・子ども会育成団体の自主運営の促進及び子ども会活動の円滑な運営を推進し、児童の健全育成を図る。		
	【取組内容】 ・3名の家庭相談員が養育に課題がある家庭を適宜訪問し、相談・指導を行った。 ・子ども会育成事業については、子どもの創造性を育むとともに、集団作業により子ども同士の交流を深め、地域の子ども会の活性化を図るため、市内小学生を対象とした子ども創作大会（木工作品を制作する「木工教室」）を開催した。		
	【指標】		
	項 目	令和4年度	令和5年度
	児童相談件数	152 件	134 件
子ども会育成事業の参加児童数	15 人	30 人	
点検結果		達成度	
関係機関との情報連携を行うことで養育に課題がある家庭を的確に把握し、家庭相談員が保護者に子育てに関する指導を行うなど、家庭教育力の向上を図った。 子ども創作大会を通じて、児童の健全育成を図った。		達成している	
今後の取組		今後の方向性	
引き続き家庭相談員を継続的に配置し、児童福祉と母子保健機能が統合されたこども家庭センターの強みを生かし、養育に課題がある家庭に関わりながら青少年の健全な育成を図る。 子ども会加入児童数の減少に伴い、令和5年度をもって子ども会育成連合会を解散したことから、子ども会育成事業として実施していた子ども創作大会については、令和6年度から児童館事業として継続実施することとし、引き続き学校・家庭・地域と連携した子供の健全育成に取り組む。		継続	

重点的施策 家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進 【生涯学習・青少年育成】		担当課	
事業内容		健康こども未来課	
家庭、学校、地域等の連携による地域全体の教育力の向上			
事業目標			
青少年が心身ともに健やかに成長し、自らが持つ個性や能力を活かして社会で自立できるよう、家庭や学校、地域などの連携による教育力の向上を図ります。			
主要事業			
青少年育成竹 原 市 民 会 議 〔決算額〕 842 千円	【事業概要】		
	・子供たちが、相手の立場や心情に共感する力、論理的に物事を考える力、自分の主張を正しく伝える力、広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につける機会とすることを目的とする、中学生(義務教育学校後期課程を含む)を対象とした話し方大会を開催。		
	【取組内容】		
	・中学生(義務教育学校後期課程を含む)を対象とした話し方大会を開催し、県大会に推薦した。		
	・青少年育成竹原市民会議の地域活動として、挨拶運動や体験活動、世代間交流を実施した。		
	【指標】		
	項 目	令和 4 年度	令和 5 年度
	話し方大会参加生徒数	1 2 名	1 2 名
点検結果			達成度
・中学生(義務教育学校後期課程を含む)を対象とした話し方大会を開催し、市内 2 中学校・2 義務教育学校からそれぞれ選ばれた 12 名の生徒が、未来への希望や提案などの意見発表を行った。			達成している
・青少年育成竹原市民会議の地域活動として、挨拶運動や体験活動を実施し、世代間交流ができた。			
今後の取組			今後の方向性
引き続き家庭や学校、地域などと連携した同様の取り組みを通じて、青少年の心身の健やかな成長を促し、地域を支え、世界で活躍する人材を育成する。			継続

重点的施策 文化財の保存・継承の推進【歴史・文化財】		担当課						
事業内容		文化生涯学習課						
○文化財及び歴史資料の調査・記録 ○文化財の指定・登録による保存・継承 ○町並み保存地区における伝統的建造物の保存修理と修景による歴史的景観の保全								
事業目標								
文化財及び歴史資料の調査・記録を実施するとともに、文化財指定・登録等により後世への保存・継承を図る。								
主要事業								
歴史的建造物調査分析事業 〔決算額〕 1,536 千円	【事業概要】 竹原市歴史民俗資料館、胡堂及び旧松阪家住宅（竹原市重要文化財）について、文化財的価値を明らかにするとともに、今後の保存・活用方針を検討するため、調査を行った。 【取組内容】 令和5年度は、竹原市歴史民俗資料館及び胡堂については、調査結果を取りまとめた調査報告書を作成し、市民向けの調査報告会を開催した。また、旧松阪家住宅については、類例調査等を行った。 なお、令和6年度は、旧松阪家住宅について、調査結果を取りまとめた調査報告書を作成し、市民向けの調査報告会を開催する。 【成果指標】 前期目標（令和5年）35 件 <table><tr><th>項 目</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr><tr><td>国・県・市指定及び登録文化財件数(合計)</td><td>36 件</td><td>36 件</td></tr></table>		項 目	令和4年度	令和5年度	国・県・市指定及び登録文化財件数(合計)	36 件	36 件
項 目	令和4年度	令和5年度						
国・県・市指定及び登録文化財件数(合計)	36 件	36 件						
旧森川家住宅保存修理事業 〔決算額〕 27,305 千円	【事業概要】 旧森川家住宅（竹原市重要文化財）の離れ座敷について、文化財として適切に保存し、活用を図るため、保存修理を実施した。 【取組内容】 令和5年度は、保存修理のための設計を行い、工事としては建物の解体等を行った。 なお、令和6年度は、引き続き工事を進め、建物の曳家、地盤改良等を実施する。							

伝統的建造物 群保存事業 〔決算額〕 6,774 千円	【事業概要】 町並み保存地区を保存し、後世に継承するため、建造物の修理を実施した。		
	【取組内容】 民間所有の建物の修理 2 件に対して補助を行った。 〈事業成果〉 ○ 長年空き家で傾いていた物件を、計画的に修理したことで活用につながることとなった。		
	【成果指標】 前期目標（令和 5 年）153 件		
	項 目	令和 4 年度	令和 5 年度
	伝統的建造物群保存地区における保存修理・修景事業の延べ実施件数（累計）	161 件	163 件
点検結果		達成度	
文化財の調査や町並み保存地区内での建造物の修理等に取り組んだ結果、文化財の保存・継承を図ることができた。		達成している	
今後の取組		今後の方向性	
引き続き、文化財の保存・継承を進めるため、文化財の調査や建造物の修理等に取り組む。		継続	

重点的施策 文化財の活用の推進【歴史・文化財】		担当課	
事業内容		文化生涯学習課	
○文化財の公開活用の促進			
○文化財の適正な維持管理			
○歴史的建造物の活用に向けた取組			
事業目標			
町並み保存地区をはじめとする文化財を適切に維持し、文化財の公開活用に取り組む。			
主要事業			
文化施設公開事業 〔決算額〕 8,777 千円	【事業概要】 伝統的建造物を活用し、文化財に対する意識向上を図るため、文化施設の公開を行った。		
	【取組内容】 文化4施設（旧松阪家住宅・旧光本家住宅・旧森川家住宅・竹原市歴史民俗資料館）について、公開を行った。春・秋の行楽シーズンに開館時間の拡大・特別公開を行うとともに、旧松阪家住宅・旧森川家住宅で文化財の企画展示、アートイベント等を行った。		
	【成果指標】 前期目標（令和5年）64千人		
	項 目	令和4年度	令和5年度
	文化4施設入館者数（延べ）	25千人	30千人
	※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の入館者数：令和元年度 45千人、感染拡大後の入館者数：令和2年度 11千人、令和3年度 12千人		
歴史的建造物活用促進事業 〔決算額〕 691 千円	【事業概要】 市が所有する歴史的建造物について、特別感や地域特性を演出できる施設を目指し、今後の活用実施方針の作成を行い、民間事業者による新たな活用を開始した。		
	【取組内容】 町並み保存地区及びその周辺にある市有の歴史的建造物7施設（竹原市歴史民俗資料館・旧光本家住宅・竹原市町並み保存センター・旧吉井家住宅・旧上吉井家住宅・旧松阪家住宅・旧森川家住宅）について、これまでの民間事業者による社会実験の評価等を踏まえ、今後の活用実施方針を作成するとともに、旧森川家住宅において民間事業者によるカフェ営業等を開始した。		

点検結果	達成度
文化施設の公開や歴史的建造物の新たな活用の開始等に取り組んだ結果、文化財の活用を進めることができた。	ほぼ達成している
今後の取組	今後の方向性
引き続き、文化施設の公開を行うとともに、魅力ある施設となるよう企画展示、イベント等に取り組む。 また、市有の歴史的建造物について、民間運営の導入等を進め、歴史的建造物の活用を促進させる。	拡大・重点化

重点的施策 歴史資産の普及啓発の推進【歴史・文化財】		担当課							
事業内容		文化生涯学習課							
○歴史・文化財に関する講座等の開催による普及啓発 ○文化財に関する情報発信									
事業目標									
本市の歴史や文化財などの歴史資産に対する誇りや愛着を醸成するため、本市の歴史資産の普及啓発を実施し、次世代育成に努める。									
主要事業									
竹原歴史文化啓発事業 〔決算額〕 非予算	【事業概要】 子供たちに竹原の歴史・文化財を知ってもらうため、小学校の総合的な学習の時間において歴史文化の説明を行った。								
	【取組内容】 竹原市歴史民俗資料館等で、竹原市内の小学校2校（大乘小学校・東野小学校）及び義務教育学校2校（忠海学園・吉名学園）の前期課程の児童に対して、竹原市の歴史、町並み保存地区の特徴等の説明を行った。 新任の教職員を対象とした町並み保存地区の研修を継続的に行っており、小学校・義務教育学校前期課程の社会見学等につながっている。								
	【成果指標】 前期目標（令和5年）80人								
	<table><tr><th>項 目</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th></tr><tr><td>市内小学校等の文化4施設の社会科見学等による児童来館者数（延べ）</td><td>156人</td><td>56人</td></tr></table>			項 目	令和4年度	令和5年度	市内小学校等の文化4施設の社会科見学等による児童来館者数（延べ）	156人	56人
	項 目	令和4年度	令和5年度						
市内小学校等の文化4施設の社会科見学等による児童来館者数（延べ）	156人	56人							
※来館した学校数は例年並みだったが、来館した学校の児童数が例年よりも少なかった。									
日本遺産（北前船寄港地）活用事業 〔決算額〕 14千円	【事業概要】 文化財を通じて歴史的魅力や特色を発信するため、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」を活用して、様々な事業を実施した。								
	【取組内容】 広報たけはらで日本遺産の構成文化財等を紹介する連載を行うとともに、日本遺産の認定を受けている中国・四国地方の自治体を紹介するパネル展を開催した。 また、子供たちに北前船と竹原市の歴史を知ってもらうため、たけはら歴史体験講座を開催した。 〈歴史体験講座参加者アンケート〉 ○ 北前船の寄港地が竹原市にあったことを知ったり、関連する文化財を見学して、とても興奮しました。 ○ 竹原市の歴史や北前船について、調べていきたい。								

点検結果	達成度
児童への歴史文化の説明や日本遺産を活用した事業等に取り組んだ結果、歴史資産の普及啓発を進めることができた。	ほぼ達成している
今後の取組	今後の方向性
引き続き、歴史資産の普及啓発を進めるため、歴史・文化財に関する講座の開催や情報発信等に取り組む。	継続

4 評価委員の評価

【評価委員】

広島経済大学教授	胤森 裕暢
広島大学准教授	米谷 剛
元竹原市PTA連合会会長 元豊竹PTA連合会会長	辰己 寛
広島県教育委員会生涯学習課 社会教育監	半田 光紀
湯本豪一記念日本妖怪博物館 (三次もののけミュージアム) 館長	植田 千佳穂

教育委員会の事務の点検及び評価を行うにあたり、令和6年9月20日に学識経験者5名により、次のとおり点検及び評価をいただきました。

I 総括的な意見

令和6年3月に策定された教育大綱にあるように、これまで竹原市では「本市の財産である『人』と『地域資源』を活かした、まちの個性や魅力の創出」に取り組んできた。こうした中、我が国では少子高齢化、情報化、グローバル化等が進み、社会構造までも大きく急速に変化しつつあり、「予測が困難な時代」、「厳しい挑戦の時代」を迎えているとされる。国では、一人一人がよく成長し、質的な豊かさを伴う未来社会の担い手となれるような教育施策が求められている。

本市教育委員会はこれらのこともふまえ、「グローバル社会を生き抜く人づくり」を基本理念とし、「コミュニティ・スクールを軸とした学校、家庭、地域が連携し地域全体で教育を支援する体制づくり」を求めながら施策を方向付けており、学校教育、生涯学習・青少年育成、歴史・文化財の3つ施策の柱から、細やかで創意工夫された各事業を展開し、これらを着実に推進している。

以下、「施策の柱」ごとに総括的な意見を申す。

施策の柱1 学校教育

教育委員会が主導して地域とともにある信頼された学校づくり、幼保小の連携教育、「確かな学力」の向上、「豊かな心」の育成、「健やかな体」の育成、充実した環境づくりに係る各事業は着実に進められている。

幼児期から小・中・義務教育学校に至るまできめ細かい指導・支援を切らさないよ

う配慮、工夫がされている。各校の特色あるカリキュラムづくりが進められている。教職員の人材育成も着実に行われている。さらに全市的なコミュニティ・スクールを特長あるものにするための交流・協議も重ねられている。学校適正配置計画等による（仮称）賀茂川学園設立準備や大乘小学校統合準備は、地域の声を丁寧に受け止め進められており、高く評価できる。

施策の柱2 生涯学習・青少年育成

生涯学習拠点・機会の充実、学校と地域の協働による生涯学習の推進、スポーツ・芸術の振興、家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進に係る各事業は、新庁舎の整備による場所等の変更がありながらも、関係団体や市民らと連携を密にしながら推進されている。

「施策の柱3 歴史・文化財」

文化財の保存・継承の推進、文化財の活用の推進、歴史資産の普及啓発の推進に係る各事業は着実に、多彩な工夫をしながら進められている。今後、学校教育等との関連もさせながら、さらなる普及啓発の工夫が行われ、今後の市民としての深い理解、シビックプライドの醸成を図られたい。

Ⅱ 各「主要事業」に対する意見

以下、各「主要事業」について意見を申す。

施策の柱1 学校教育

（1）コミュニティ・スクール推進事業

※「施策の柱2 生涯学習・青少年育成」の本事業にかかわる評価も参照頂きたい。

全校に配置された学校運営協議会には、事務局が積極的に参加しながら、学校運営に対する理解を深め、地域、保護者の声を生かすよう熟議が行われている。また各校の学校運営協議会がよく機能するように、今年度は委員を対象にした、研修会及び実践交流会も開催されており、先進的な事例に学びながら、各協議会の取組を紹介し合い、開かれた協議会とコミュニティ・スクールに発展することが期待できる。委員会の意識改革や地域とともにある学校づくりが推進されている。

今後さらに、各校のホームページ等で協議会の様子や具体的な取組をわかりやすく紹介し、地域が学びに参画していることが一覧できるような工夫を期待したい。また委員交付式（4月）や交流会（1月）のように委員が集う場を、具体的な課題発見と解決のために生かすことはできないか。さらにすでに実施されつつあるようだが、教職員にもコミュニティ・スクールとして、自校をいかに充実させていけばよいかについて研修や協議を期待したい。

（２）教職員の人材育成

広島県、竹原市として向上を図る教職員の指導力をふまえ、人材育成に努めている。具体的には校長へのヒアリングを通して、各校、各教職員の育成への助言が行われたり、各キャリアステージに応じた研修が実施されたり、訪問指導が行われたりして、ミドルリーダー、主任層の学校経営の参画意識の醸成や若手教職員の力量及びやりがいの形成に注力がされている。

今後、地域とともにある学校づくりの中心となるよう、多様な立場や考え方を持つ市民等と協働する力、コミュニケーション力やカリキュラム・マネジメント力の形成にも注力いただきたい。自分ならいかにコミュニティ・スクールを経営していくか語れる管理職の育成も重要である。また、若手をはじめ本市教職員間での交流を活性化して、本市に来て活躍し成長してゆける環境づくりを願う。

（３）幼保小連携教育

それぞれの園所での育ちと学びを、円滑に小学校につなぐために、令和５年度も幼保小連携協議会と研修会を計画的に実施され、実効性のある連携のための体制を構築されている。具体的には、協議会で各カリキュラムを吟味修正され、方向性を共有されるなどしている。研修会では理論研修と保育・授業参観を合同で行うことができ、育みたい資質・能力を認定こども園と小学校等との間でよく共有できていいる。

さらに小学校等の中で広く情報の連携や方向性の共有が進み、きめ細かいカリキュラムづくり、さらなる保護者との信頼関係づくり、生徒指導や教育相談、特別支援教育の充実等に生かされることを期待する。

（４）未来の人材育成事業

１DAY国内留学Ⅰ及びⅡ、そしてハワイ州への海外派遣研修と事前事後の発表会、さらに姉妹校とのオンライン交流は、多くの児童生徒が異文化に触れて、楽しさや喜びを感じたり、多様な視点、グローバルな視点を持ったり、リーダーとしての意識を高めたり、英語学習への意欲を高めたりすることになっており優れた取組といえる。全国学力調査の結果からも、この事業をはじめとする各学校における取組が、生徒たちの英語力の向上につながっていると考えられる。

今後も継続されることを期待するとともに、これと関連させて、竹原市各地の文化をよりよく理解し発信できるようカリキュラムの充実を期待したい。また中学生たちが小学生たちに活動を紹介したり、学校運営協議会など地域の方々に向けて報告したり、場所を町並み保存地区に用意して広く市全域に発表したりすることはできないだろうか。ふるさと「たけはら」をよく理解し広く発信する市民の育成につながると考える。

（５）「学びの変革」全校展開

前年までの全国学力調査の結果をふまえ、全市的に学校訪問指導して「主体的な学び」に向けた授業改善を進めたり、「学びの変革」推進協議会を繰り返し開催して、教師によるファシリテートに焦点をあてた授業改善を推進したりしており、これらの成果は全国学力調査にも現れてきている。

また前年までの調査結果から、個のつまずきを分析し手立てを講じてもいる。さらに研究指定を受け、小学校低学年からの学習意欲に係る授業研究や探究的な学習に係る研究を進めている学校（吉名学園）もあり、着実に学力向上に向けた取組が行われている。

今後、個々の児童生徒の成長を把握したり、指定校をはじめとして改善開発されている各校の授業やカリキュラムを相互に報告し共有したり、それらを学校運営協議会委員や広く保護者や地域で共有したりすることはできないだろうか。市民が学びへの参画イメージを持ち、保護者たちが本市の学校に通学させて良かった、協力したい、通わせたいと思えるのではないか。

（６）学校ＩＣＴ活用教育推進事業

ＩＣＴを活用した授業実践を充実させるよう、各校の推進リーダーを対象とした研修を計画的に行い、理論面と活用面から協議を深められている。各授業でのＩＣＴ活用は、より適時的に行われるようになっていていると考えられる。

今後、情報活用能力の育成の視点から日常的に活用させる工夫、教科等の特性に合わせた工夫、グループ活動など協働的な学びでの工夫、個の学びに生かす実践的方法、竹原市を探究させる工夫等について、教師が学校を越えて、関心に応じて学びあったり交流したりする研修の場は考えられないだろうか。

（７）特別支援教育、介助員配置

市民の協力を得て、相当数の介助員を配置できている。年度当初に全介助員を対象に支援のための研修を行ったり、特別支援教育相談委員会で専門的な協議を行ったりしている。本市の全ての児童生徒が適切な教育を受けられるよう指導・支援が進められていると考えられる。

今後も専門機関との連携について、個々の児童生徒に応じた適切な支援について、担任等校内のスタッフ間の連携の工夫等について協議や研修が充実され、支援体制づくりを進めていただき、誰一人残すことのない最適な学びが保障されるよう努めていただきたい。

（８）生徒指導支援事業

適応指導教室での取組、学校教育支援アドバイザーの設置により、各校の状況をふまえながら個の実態に即応した指導・支援が展開されていると考えられる。県教育委員会の「スクールＳ」を活用した、オンラインや来室での個別の支援も活用し、きめ細かい取組が進んでいると考えられる。

近年、全国的に不登校児童生徒の割合が大きくなっている中、こうした本市の取組は相当の成果をあげていると理解できる。

個々の児童生徒とよくつながりながら、各校の教職員やＳＣ、ＳＳＷとの連携も図り、それぞれの成長を支えてゆく本市の優れた取組が続けられていくことを願う。

（９）竹原市キャリアスタートウィークの実施、道徳教育推進

昨年度も続けて、全市的にキャリアスタートウィークを実施できている。特に各校において、育てたい資質・能力を地域の事業所と共有しながら連携協力したり、事業

実施後の事業所との交流、学校運営協議会を生かし、生徒たちの報告会に委員が参加する等したりして展開できたことは、優れた取組と考えられる。また竹原中学校区では、県教育委員会からキャリア教育の充実を中核とするカリキュラムの研究開発の指定を受けている中、資質・能力を見定めて外部人材を積極的に活用するカリキュラム開発を行っており、成果が大いに期待される。全市的に道德の授業研究協議を深められたことも評価できる。

今後、キャリアスタートウィークと道德授業を関連付けた竹原市らしいカリキュラム開発も検討いただきたい。また、協力いただける事業所を竹原市全域で増やし、その情報共有を図り、連携いただけるよう工夫できないか。交通網も考慮しないといけないであろうが、各校の個々の生徒の選択の幅を広げることができる竹原市らしい取組になると考えられる。

（１０）体力テストの分析を通じた指導の工夫改善

全学年で体力テストを実施でき、的確に結果を分析することから、改善計画を立て、授業や行事の実践に生かすことができていることは、小５と中２についてコロナ禍前の本市の値にまで戻すことができた等、とても大きな効果をもたらしていると考えられる。

さらに、個々の成長の様子などを含め結果の分析と評価を行い、児童生徒や保護者とよく共有しながら、「運動やスポーツ好き」の児童生徒を育てていく工夫を期待したい。

（１１）小中一貫教育の推進

吉名学園に続いて、忠海学園が義務教育学校となり、特色ある学校づくりが進められている。また竹原中学校区と賀茂川中学校区では、定期的に部会を開いて、連携型小中一貫教育を推進しており、９年間を見通した指導を徹底するよう、それぞれの学園、中学校区が着実な取組を進めていると考えられる。

こうした中、例えば忠海学園では、学校運営協議会を核とした地域を巻き込んだ図書館教育が進んでいる。（令和６年度文部科学大臣表彰を受けることができた。）こうしたカリキュラムづくりの工夫点や課題点などをお互いに手がかりにできるような交流協議の場をつくり、「９年間の系統性をもって、地域と学校が連携・協働して子供たちを育てる」（「竹原市立学校適正配置計画」、令和４年１２月、令和５年６月改訂）ための特色あるカリキュラムづくりが各校、中学校区で進むことを大いに期待する。

（１２）市立学校適正配置計画の推進

竹原市教育大綱に記されているように本市は、「少子化に伴い、児童生徒が年々減少していることから、教育環境の整備のために、学校規模の適正化を推進」している。これについて、先の竹原市立学校適正配置懇話会答申を踏まえ策定された竹原市立学校適正配置計画（令和５年６月改訂）には、市立学校の適正規模及び適正配置の具体的なビジョンが示されている。特に令和９年度までの本計画期間には、「賀茂川ブロックにおいて、コミュニティ・スクールを中核とする義務教育学校（仮称）賀茂川学園の設立及び大乘小学校の竹原小学校への統合」を行うこととなっている。これを受け

それぞれの学校運営協議会委員を含めた（仮称）賀茂川学園設立準備委員会と大乘小・中学校統合準備委員会が設置された。準備委員会の役割、スケジュールなどが協議されており、その具体的な様子が準備委員会だよりとして公表され、関係地域の住民に周知するなど丁寧に進められている。

本市の学校適正配置は、子供たちの健やかな成長とともに、地域の創生まで視野に入れ進めてゆくことが肝要である。保護者や地域住民、市民の意見をよく受け止めながら、学校運営協議会がしっかり機能する竹原市らしい義務教育学校づくりが進むよう、計画が進むことが期待されている。

施策の柱2 生涯学習・青少年育成

（13）地域交流センター運営事業、図書館運営事業、竹原市総合文化祭開催事業、ときめき講座開催事業

令和元年度に公民館から移行した各地域交流センターでは、生涯学習の拠点として、創意工夫をこらした各種講座、教室等を展開し、市民の学習機会の充実に取り組んでいる。地域住民が講師となり、自治会等と連携して、様々な人材の活用にも取り組んでいる。利用者数も年々増加している。さらなる充実発展を期待する。

指定管理者による委託業務となっている図書館運営事業は、図書館サービス、地域ステーションを追加しての移動図書館車巡回、電子図書館サービス、小・中・義務教育学校、地域ボランティアとの連携等の業務の他、竹原学歴史講座（6回）を開催している。既存事業に加え、新たな取組を展開されており、幅広い市民の利用を掘り起こしているといえる。今後も各学校との連携を図り、ボランティアスタッフ等としての参画を促していただきたい。

竹原市総合文化祭開催事業は、竹原市文化団体連盟と共催して竹原市総合文化祭を行い、本市の芸術文化振興に寄与している。文化祭の展示部門と児童生徒図画・書道展は、本市新庁舎整備に伴い展示場所を変更したが、例年並みの参加団体数や応募者数があり、着実に取り組まれていると考えられる。今後も児童生徒や市民の作品、市の収蔵する美術品等の展示を広く展開いただきたい。

市民に、学ぶたのしさや竹原の歴史・文化に親しんでもらい、生きがい等を実感してもらうよう令和4年度から始められたときめき講座及び関連事業は、多くの参加者を得ており、市民の学ぶ機会の充実を図ることができている。引き続き講座の工夫を期待する。

（14）コミュニティ・スクール推進事業、文化芸術体験等事業

※「施策の柱1 学校教育」の本事業にかかわる評価も参照頂きたい。

地域とともにある学校づくりについて実践交流会を実施できた。また地域づくり課と連携して、多くの地域交流センター職員を対象に、生涯学習振興・社会教育行政等に期待される役割等の研修を実施できた。地域活動を担う人材の育成が進められている。

今後、コミュニティ・スクールを推進する工夫と課題について学習を深められるよう、交流会や研修の機会充実を期待する。

竹原市文化団体連盟と連携して開催した美術体験講座は、市のHPなどを通じて広く募集して、児童生徒を含め市民の参加を得て、参加者の感想にあるとおり、楽しい講座が運営されたと考えられる。引き続き広報と活動の工夫に取り組まれない。

（１５）テニスコート改修事業、トップアスリート等スポーツ教室、各種大会等開催事業、竹原市美術展開催事業

ピースリーホームバンブー総合公園人工芝テニスコートの完成記念ソフトテニス教室には多数の児童生徒が参加した等、トップアスリートによる様々なスポーツ教室への参加者数は大きく伸びた。

トップアスリートの方々から児童生徒が直接指導を受けられたことは、競技力だけでなく、意欲等の向上につながったものと考えられる。

また様々なスポーツ大会が開催され、前年度に並んで多数の市民、多数のチーム参加を得たことは、大いに本市のスポーツ振興を図ることができていると考える。今後、各スポーツ大会のボランティアスタッフとして、本市の中学生等が参画し活躍できないか、引き続き検討いただきたい。

広く市民から作品を公募する竹原市美術展は、新庁舎整備に伴い展示場所を変更しながらも、例年並みの作品応募数を得て開催されており、市民の展示・鑑賞の機会を提供できており、意義深いと考える。（本市の「児童生徒図画・書道展」とは別）児童生徒の作品展示について引き続き検討いただきたい。

（１６）家庭相談業務、子ども会育成事業

家庭相談員が訪問して課題を抱えている家庭への相談・指導を展開していることは、本市として子育てに対する細やかな取組の一つと考えられる。相談件数は昨年度と比べやや減少しているが、子育てに関する相談・指導が、支えになっている保護者はやはり相当数いる。引き続き相談・指導、関係機関との連携の充実を願う。また子ども会育成事業は、小学生を対象とした子ども創作大会を開催でき、前年度よりかなり多くの参加者を得ている。

子ども会参加児童数の減少により子ども会育成連合会が解散されても、子ども会育成事業は児童館の事業として継続実施されることになるのは重要な取組と考える。

（１７）青少年育成竹原市民会議

話し方大会、また地域での挨拶運動や体験活動を通した世代間交流は、子供たちが心身ともに健やかに成長し、自らの個性や能力を活かして社会で自立できるよう、本市の家庭や学校、地域が連携して行う優れた取組と考えられる。

特に義務教育学校後期課程を含む中学生を対象とする話し方大会には、各校から選ばれた生徒（昨年度と同数）の参加を得て、「未来への希望や提案などの意見発表」が行われた。本市教育大綱の「施策の柱１ 学校教育」で示す取組の方向性ともつながっており、評価の方法、形態、場所などを含めより効果的で魅力的な大会になるよう取組を進めていただきたい。

施策の柱3 歴史・文化財

(18) 歴史的建造物調査分析事業、旧森川家住宅保存修理事業、伝統的建造物群保存事業

本市の歴史的建造物の価値を明らかにし、保存・活用方針を検討するための調査は、本市教育にとっても極めて重要である。今年度も竹原市歴史民俗資料館等の調査報告書の作成、調査報告会の開催、類例調査等が着実に行われている。

旧森川家住宅の離れ座敷について、活用を図るためにも適切に保存修理のための設計、建物の解体等が行われている。

町並み保存地区について、長年空き家等であった民間所有の建物の修理2件を行っており、文化財の保存・継承を図ることができた。今後、積極的に活用を図っていくことが期待される。

(19) 文化施設公開事業、歴史的建造物活用促進事業

文化4施設(旧松阪家住宅、旧光本家住宅、旧森川家住宅、竹原市歴史民俗資料館)の公開が行われ、行楽シーズンには開館時間の拡大や特別公開、また企画展示、アートイベントなど取組が進んでいる。また市有する他の施設を含め、7施設について、社会実験の評価を踏まえて、活用実施方針を作成し、すでに一部カフェ営業等が始められている。こうした効果的な取組を通して、コロナウイルス感染拡大後の令和2年度から、着実に入館者数が増やすことができている。今後も公開、企画の工夫が続けられることを期待する。

(20) 竹原歴史文化啓発事業、日本遺産(北前船寄港地)活用事業

市内2小学校、2義務教育学校の児童に対して、竹原市の歴史および町並み保存地区の特徴等の説明が行われた。来校数は例年並みであったが、来館した児童数は減っている。新任の教職員を対象とした町並み保存地区の研修は、児童生徒への波及も期待でき、優れた取組と考えられる。

今後も、社会科や総合的な学習の時間、他に特別活動など、カリキュラムや実践との関連を図りながら、小学生たちが積極的に竹原の歴史文化について学ぶ支援の工夫を期待したい。

また日本遺産(北前船寄港地)の活用については、「広報たけはら」で連載を行い、パネル展を開催して広く紹介が行われている。本市の魅力を体現していると考えられる。また子供たちへの歴史体験講座も開催されており、関心を高めた感想なども得られている。

今後も、本市の児童生徒の社会科等の学習との関連を図ることも含め、普及啓発されることを期待する。児童生徒の学習意欲を高め、シビックプライドを醸成してゆくことにつながると考える。

5 参考資料

(1) 竹原市教育大綱（平成31年度～令和5年度）〔抜粋〕

施策体系

第6次竹原市総合計画～前期基本計画～を構成する4つの将来像のうち、「“文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち」「自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち」を目指すため、竹原市教育大綱では、『故郷を大切にし、未来を拓く人づくり』を基本理念として設定しました。

この基本理念を実現するため、総合計画の施策の方向性を活かしつつ、教育大綱では、「学校教育」、「生涯学習・青少年育成」、「歴史・文化財」の3項目を柱とし、10年後の目指す姿を掲げ、取組の方向性を示しています。

将来像

【人材】「“文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち」

【個性】「自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち」

目標像

【人材】子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている

【人材】市民一人一人が自ら学び、様々な場面で協力しながら活躍している

【個性】竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれている

教育大綱：3つの柱【10年後の目指す姿⇒取組の方向性】

○【人材】学校教育

- ・夢をもち、多様な人々と協働し、社会を主体的に生き抜くことが出来る人材を育成している

○【人材】生涯学習・青少年育成

- ・多彩な生涯学習の場が充実し、それらを担い、推進していく人材が育っている
- ・教育上特別な配慮を必要とする児童生徒等への適切な支援をはじめ、乳幼児から青少年まで健全に成長できる環境が充実している

○【個性】歴史・文化財

- ・歴史と文化財が保存・継承され、地域の活性化に活かされている

基本理念：故郷を大切にし、未来を拓く人づくり

(2) 令和5年教育委員会会議開催実績

教育委員会 開催年月日	開催回数 定例臨時別	議案 番号	議案
R5. 1. 26	第1回 定例会	1	令和5年度竹原市学校教育ビジョンについて
		2	令和5年度竹原市社会教育・生涯学習推進ビジョンについて
		3	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について (竹原市立美術館設置及び管理条例を廃止する条例案)
		4	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について (令和4年度教育委員会関係補正予算案)
		5	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について (令和5年度教育委員会関係当初予算案)
		報告 協議	小規模特認校について
R5. 2. 16	第2回 定例会	6	県費負担教職員の任免その他の進退についての広島県教育 委員会への内申について
		7	竹原市教育委員会永年勤務職員表彰について
		報告 協議	小規模特認校について
R5. 3. 15	第1回 臨時会	8	令和5年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
		報告 協議	令和4年度末・令和5年度始教職員の人事異動について
R5. 3. 22	第2回 臨時会	17	職員の任免その他の人事について
		18	竹原市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改 正する規則案
		19	竹原市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令案
R5. 3. 23	第3回 定例会	9	学校医の委嘱について
		10	学校運営協議会委員の委嘱について
		11	竹原市学校教育支援アドバイザー設置要綱案
		12	竹原市美術品等取扱要綱案
		13	竹原市立美術館設置及び管理条例施行規則を廃止する規則 案
		14	竹原市学芸員設置要綱の一部を改正する告示案
		15	竹原市立学校職員服務規程の一部を改正する訓令案
		16	令和5年度学年始休業日の変更について
		報告 協議	竹原市立学校の教育職員の在校等時間の上限等に関する方 針

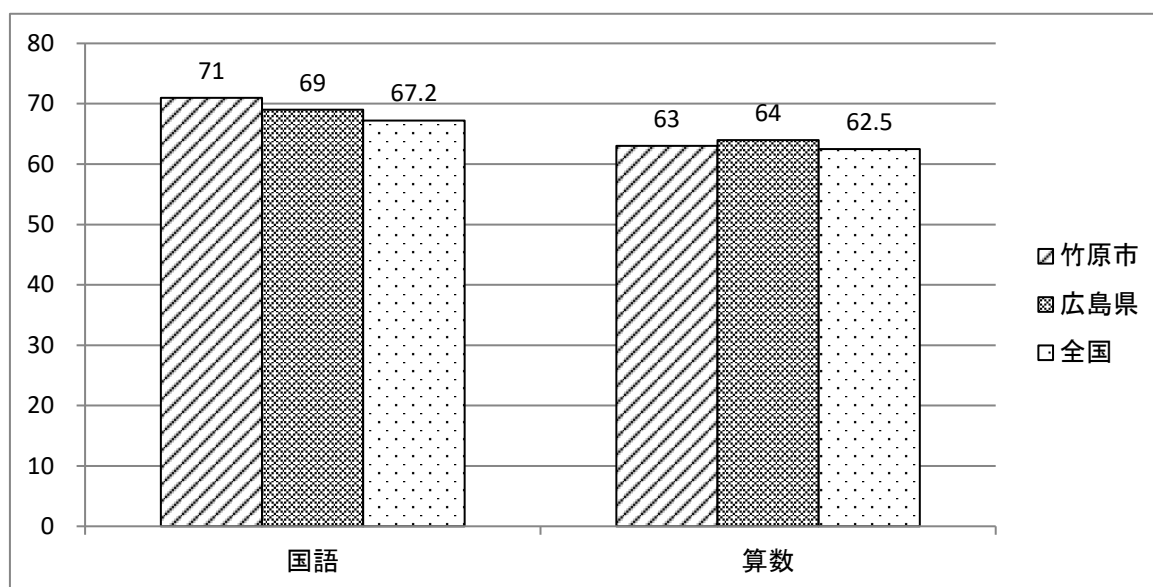
教育委員会 開催年月日	開催回数 定例臨時別	議案 番号	議案
R5. 4. 27	第 4 回 定例会	20	竹原市結核対策委員会委員の委嘱について
		21	市立竹原書院図書館協議会委員の任命について
		22	竹原市スポーツ推進委員の委嘱について
R5. 5. 25	第5回 定例会	23	竹原市教科用図書採択地区選定委員会委員の委嘱について
		24	竹原市教科用図書採択地区調査員の委嘱について
		25	竹原市社会教育委員の委嘱について
		26	令和 6 年度使用教科用図書の採択基本方針について
		27	竹原市議会に提案される教育委員会関係の議案について (令和 5 年度教育委員会関係補正予算案)
		報告 協議	竹原市立学校適正配置について
R5. 6. 22	第 6 回 定例会	28	竹原市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
		29	竹原市特別支援教育相談委員会委員の委嘱について
		30	竹原市特別支援教育相談委員会推進員の委嘱について
R5. 7. 27	第7回 定例会	31	竹原市教育委員会表彰について
		32	竹原市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について
		33	竹原市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
		34	竹原市文化財保護委員会委員の委嘱について
		35	令和 6 年度使用竹原市立小学校及び義務教育学校前期課程 教科用図書の採択について
		36	竹原市教育委員会規則の読点の表記を改める規則案
		37	竹原市教育委員会告示の読点の表記を改める告示案
		38	竹原市教育委員会訓令の読点の表記を改める規程案
		39	竹原市学校給食センター設置条例施行規則の一部を改正する 規則案

教育委員会 開催年月日	開催回数 定例臨時別	議案 番号	議案
R5. 8. 24	第8回 定例会	40	令和 6 年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
		41	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について (令和 4 年度教育委員会関係決算案)
		42	大乘小学校統合準備委員会設置要綱案
		43	(仮称) 賀茂川学園設立準備委員会設置要綱案
R5. 8. 30	第3回 臨時会	44	令和 6 年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
R5. 9. 28	第9回 定例会	45	令和 4 年度教育委員会事務点検・評価報告書について
R5. 10. 26	第10回 定例会	報告 協議	広島県公立学校教職員人事異動方針について
R5. 11. 16	第11回 定例会	46	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について (竹原市都市公園設置及び管理条例の一部を改正する条例案)
		47	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について (令和5年度教育委員会関係補正予算案)
		報告 協議	(仮称) 賀茂川学園の設立について
R5. 12. 21	第12回 定例会	報告 協議	総合教育会議について

(3) 令和5年度全国学力・学習状況調査結果

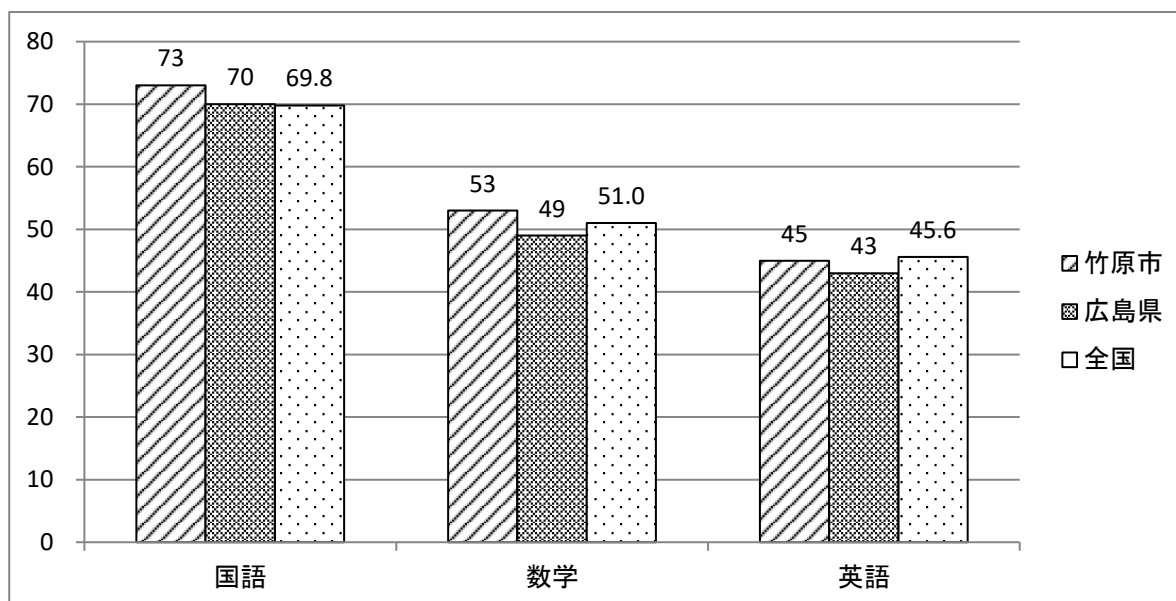
【小学校・義務教育学校】

	国語	算数
竹原市	71	63
広島県	69	64
全国	67.2	62.5



【中学校・義務教育学校】

	国語	数学	英語
竹原市	73	53	45
広島県	70	49	43
全国	69.8	51.0	45.6



(4) 令和5年度体力テストの結果

小5男子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	体力合計点 (点)
R04竹原市	17.57	19.21	35.86	43.37	47.52	9.43	149.60	22.63	54.52
R05竹原市	17.61	22.32	35.57	42.17	55.24	9.23	154.51	24.28	56.95
R05広島県	16.29	19.46	34.59	42.51	49.10	9.39	154.29	21.99	54.16

小5女子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	体力合計点 (点)
R04竹原市	15.99	19.62	38.86	41.45	42.68	9.83	146.43	14.25	56.61
R05竹原市	18.24	21.39	41.51	43.07	51.44	9.50	152.61	16.75	61.58
R05広島県	16.23	18.61	38.66	40.87	40.17	9.62	148.16	14.30	56.22

中2男子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	体力合計点 (点)
R04竹原市	30.24	27.50	43.21	52.04	76.69	8.11	195.90	18.88	40.91
R05竹原市	31.27	25.55	43.15	53.18	78.76	7.93	196.67	20.99	42.00
R05広島県	29.26	26.33	44.41	52.64	79.55	7.89	200.69	20.75	42.28

中2女子

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	体力合計点 (点)
R04竹原市	25.94	22.92	45.84	48.84	50.05	8.81	175.48	12.81	50.90
R05竹原市	25.55	22.41	44.88	48.12	58.14	8.85	166.95	13.85	50.39
R05広島県	23.47	22.31	46.58	47.22	51.95	8.87	169.52	13.06	48.60

(5) 生徒指導上諸課題の状況(令和3年度～令和5年度)

暴力行為		竹原市		広島県	
		発生 件数	1000人 あたり	発生 件数	1000人 あたり
小学校	R03	3	3.2	1,965	13.2
小学校	R04	1	1.1	2,243	15.3
小学校	R05	5	6.5		
中学校	R03	1	2.2	959	12.6
中学校	R04	0	0.0	1,159	15.2
中学校	R05	3	7.0		

いじめ		竹原市		広島県	
		認知 件数	1000人 あたり	認知 件数	1000人 あたり
小学校	R03	15	15.9	4,154	27.9
小学校	R04	3	3.4	4,229	28.9
小学校	R05	4	5.2		
中学校	R03	13	28.8	1,388	18.2
中学校	R04	2	4.3	1,555	20.4
中学校	R05	0	0.0		

不登校		竹原市		広島県	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)
小学校	R03	3	0.32	2,062	1.39
小学校	R04	4	0.45	2,759	1.88
小学校	R05	4	0.52		
中学校	R03	20	4.42	3,701	4.85
中学校	R04	17	3.62	4,678	6.14
中学校	R05	16	3.74		

(6) 令和5年度図書館利用状況

本館開館日数 291日

移動図書館車 96日

図書の利用

		本館	移動図書館車	合計
個人貸出	登録者数	16,040	—	16,040
	貸出者数	※32,028	5,519	37,547
	貸出冊数	118,598	15,638	134,236
団体貸出	団体登録者数	108	—	108
	貸出冊数	6,769	35,192	41,961
停本所	停本所数	10	—	10
	貸出冊数	8,915	—	8,915
貸出冊数合計		134,198	50,833	185,131

※ 個人貸出の貸出者数については、令和5年度よりWEB予約による貸出者数を含めている。